

阿寒町商工会 御中

「伴走型小規模事業者支援推進事業
に関する調査」

文献調査中間報告

2017年8月

株式会社 アイ・ピー・エス

もくじ

I 調査の概要	1
II 調査結果のまとめ	2
III 調査結果の詳細	
1. 阿寒町の人口	5
2. 阿寒町の産業	8
3. 阿寒町の観光	13
4. 住民意識	14

I 調査の概要

1. 調査目的

既存資料を分析し、阿寒町の現状と課題の概要を明らかにする。

2. 調査方法

文献調査…データの収集・分析

3. 参考データ

- 官公庁統計データ
- 金融機関の調査レポート
- 市町村実施の住民意識調査等

4. 分析方法

二次分析(時系列分析、地域別分析など)

5. 調査期間

平成29年6月～8月

Ⅱ 調査結果のまとめ

<阿寒町の人口>

- 人口は長期的に減少傾向にあり、直近の平成 29 年 7 月末で 4,558 人と平成 17 年の約 71%に減少
- 世帯数も減少が続いていたが、平成 27 年、28 年と微増に転じている
- 世帯人員は平成 17 年 2.3 人、29 年 1.8 人と縮小
- 性別年齢構成は釧路圏と比べて阿寒町は重心が下にあり、高齢化がより進行
- 将来的には、人口減少が続くと予測されており、2040 年には 3,900 人にまで減少する
- 生産年齢人口は 2010 年 60%が、2020 年には 53%、2040 年には 48%と 5 割を下回ることが想定されている

<阿寒町の産業>

- 事業所数は平成 18 年までは 400 以上を維持していたが、24 年には 297 と大きく減少、従業者数は 18 年までは 3,000 人を超えていたが、24 年は 2 千人強と大きく減少している
- 業種別にみると、農林漁業は事業所数が減少、従業者数はほぼ横ばいで、建設業、製造業は事業所数、従業者数とも減少、飲食店・宿泊業も両者とも減少している。
- 運輸業は 1 社増加、従業者数は 60 人増加、金融・保険業は 1 社増加、従業者数は横ばい

○商店数は平成 26 年 4 店増加、年間販売額は平成 19 年以降大きく減少

○阿寒町の工業事業所数は 10 社、従業者数 122 人

○工業出荷額は 16.1 億円、推移をみると、事業所数、従業者数、出荷額とも近年増加傾向にある

○観光入込総数はここ 4 年増加傾向にある

○道内客、道外客別では道内客が 67 万人、道外客が 54 万人となっている。日帰り・宿泊別では、日帰り客 62 万人に対して宿泊客 59 万人とほぼ拮抗している。

<住民意識(釧路市)>

○釧路市への愛着を“感じている”人が 86.8%とほぼ 9 割

○釧路市に“住み続けたい”と答えた人が 8 割

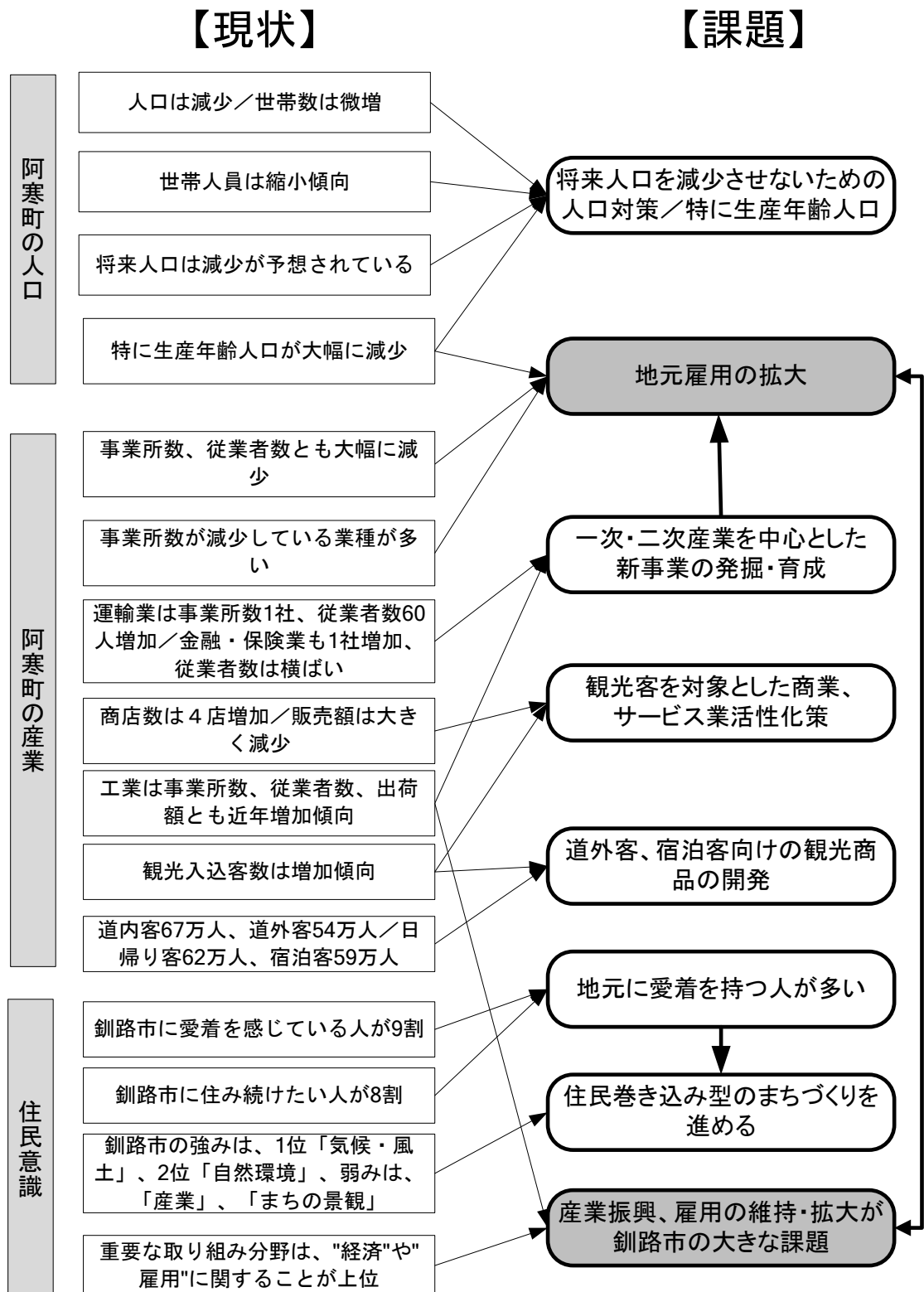
○釧路市の地域の強みは、第 1 位「気候・風土」51.5%、2 位「自然環境」50.2%、弱みは、「産業」34.1%、「まちの景観」27.7%

○今後重要な取り組み分野は、“経済”や“雇用”に関することが上位にあげられている。

■ 文献調査からみた現状と課題

阿寒町の人口は減少気味に推移しており、将来人口も減少することが予想されている。将来的に生産年齢人口の大幅な減少が予想されていいる。

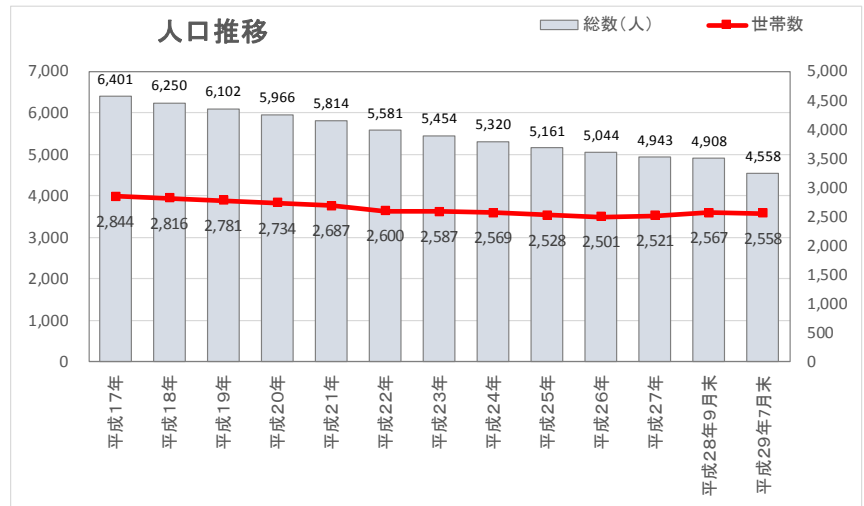
このような中で、人口減少を食い止めるには地元雇用を維持・拡大することが必須である。幸いに阿寒町は工業が増加傾向にあり、また、観光客が増加傾向にある。このような阿寒町の強みを活かした産業振興が課題である。



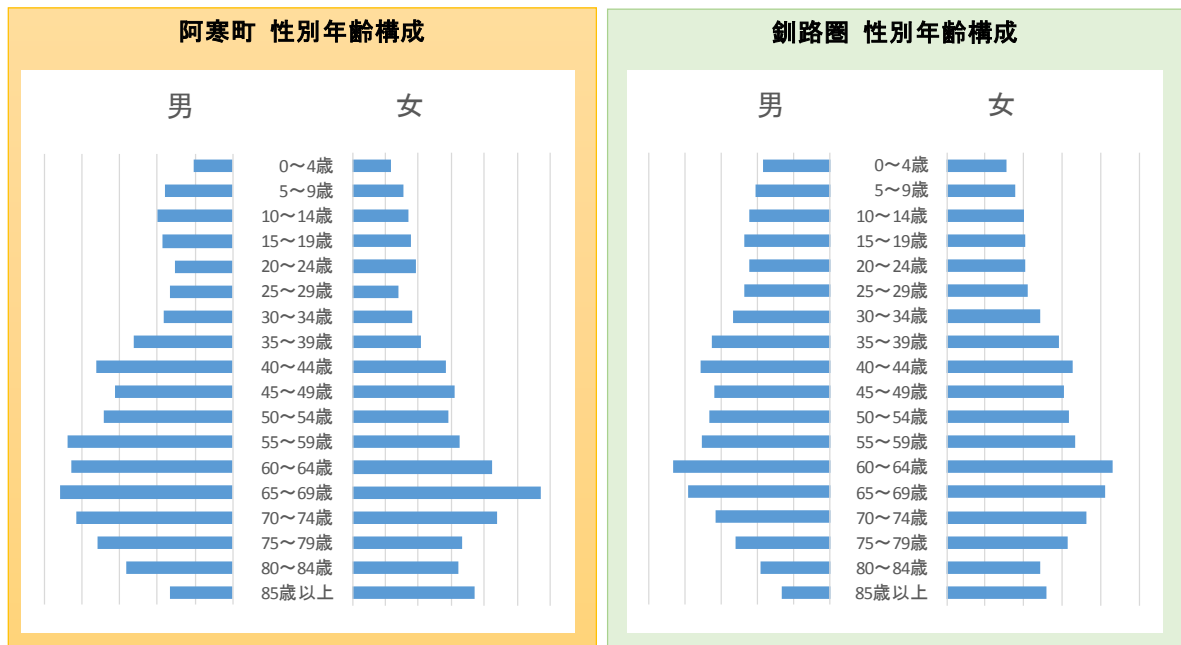
Ⅲ 調査結果の詳細

1. 阿寒町の人口

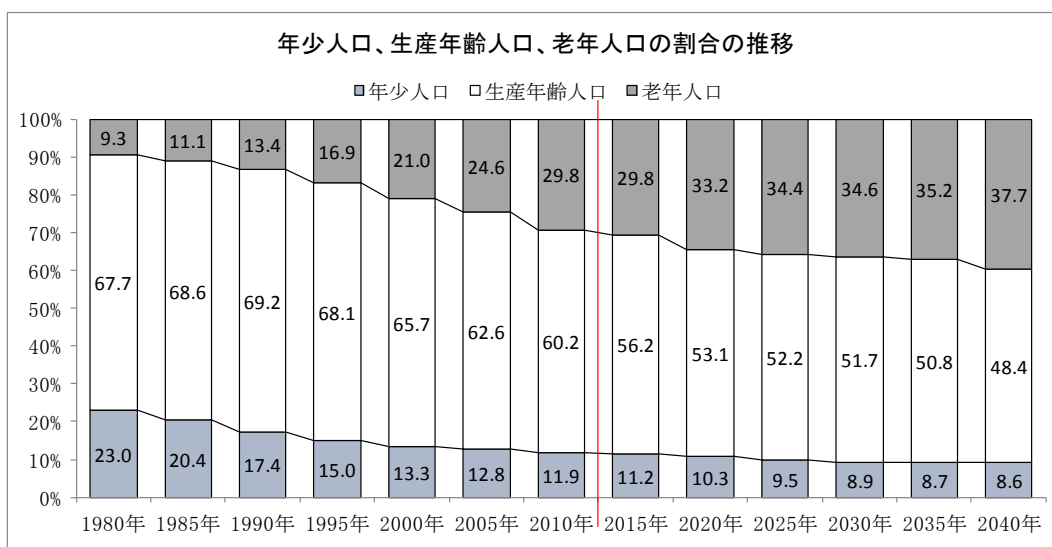
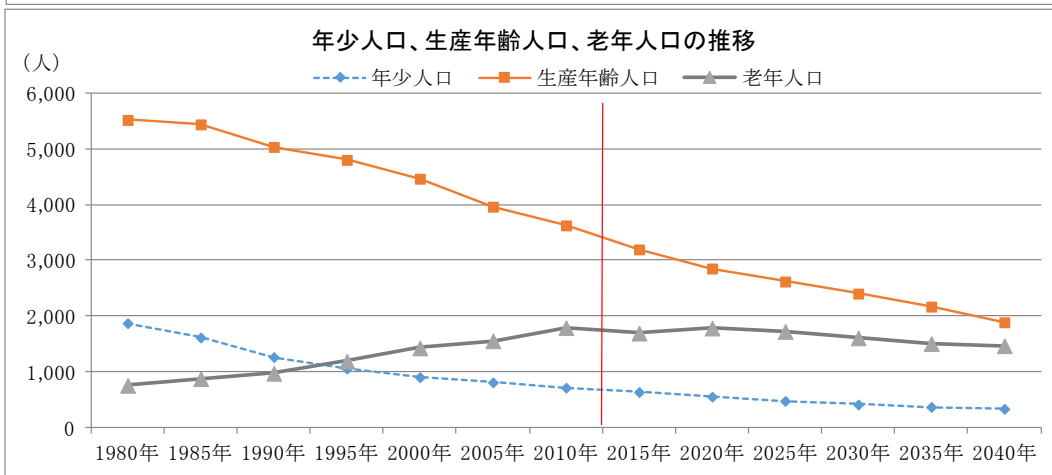
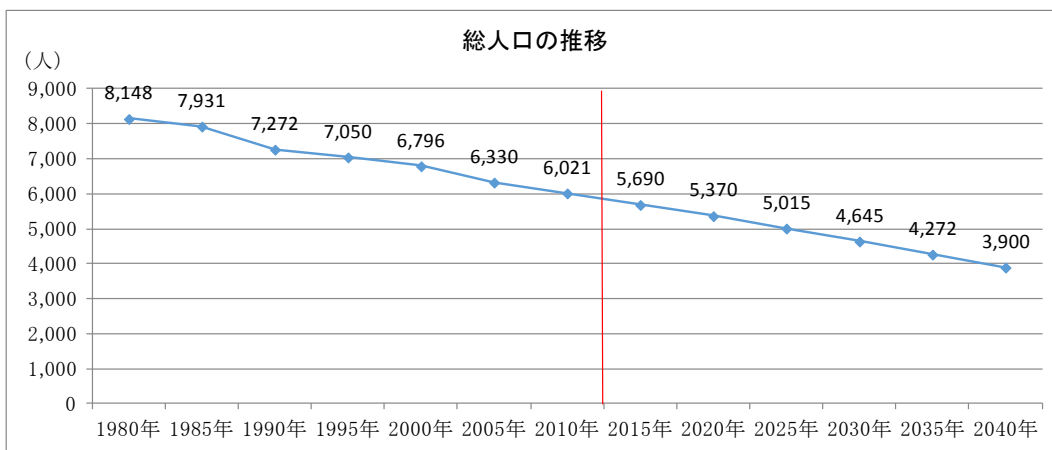
- 人口は長期的に減少傾向にあり、直近の平成29年7月末で4,558人と平成17年の約71%に減少している。
- 世帯数も減少が続いていたが、平成27年、28年と微増に転じている。29年は2,558世帯で微減となっている。世帯人員は平成17年2.3人、22年2.1人、28年1.9人、29年1.8人と明らかに縮小している。



- 年齢構成は男女とも65～69歳の層が最も多いが、釧路圏と比べて阿寒町は重心が下にあり、高齢化がより進行していることがわかる。



- 国立社会保障・人口問題研究所の推計(次ページ)では、阿寒町の人口は今後減少が続くと予想されており、今から23年後の2040年には3,900人にまで減少する。
- 年齢別では、年少人口、生産年齢人口とも今後減少する。老年人口は2020年まで増加するがその後緩やかな減少に転じる見通しである。
- 年齢別の構成比をみると、生産年齢人口は2010年60%が、2020年には53%、2035年には51%と5割代で推移し、2040年には48%と5割を下回ることが想定されている。代わって、老年人口は2020年に34%、2040年には38%に達する。



注1) 1980年～2010年の数字は国勢調査をもとにしたもの
 注2) 1980年～2005年は阿寒町のみ使用し、2010年以降は釧路市を元に比率を算出し、阿寒町の推計値とした
 注3) 2015年以降は、国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」による
 注4) グラフ上の縦線以降(2015年以降)は推計値

2. 阿寒町の産業

阿寒町の産業別事業所数と従業者数の推移を下表に示した。

○事業所数は平成18年までは400以上を維持していたが、24年には297と大きく減少した。従業者数は18年までは3,000人を超えていたが、24年は2,000人強と大きく減少している。

○業種別にみると、農林漁業は事業所数が減少、従業者数はほぼ横ばいで推移している。建設業、製造業は事業所数、従業者数とも減少、飲食店・宿泊業も両者とも減少している。

○逆に、運輸業は1社増加、従業者数は60人増加、金融・保険業は1社増加、従業者数は横ばい。一方医療・福祉以下のサービス業も事業者数、従業者数とも減少している。

※なお、平成18年までは事業所統計調査、商業統計調査と別々の統計として公開されていたが、平成21年に「経済センサス」として統一され、業種の定義や分類方法が異なるため厳密な意味で比較はできない。

○商業の推移をみると、商店数は平成26年では平成24年と比べ4店増加している。年間販売額は平成19年以降大きく減少している。26年は19年の半分以下である。

※平成24年の数字は経済センサスから拾ったが、定義やカテゴリーの違いがあるものと思われるため、比較対象から割愛した。

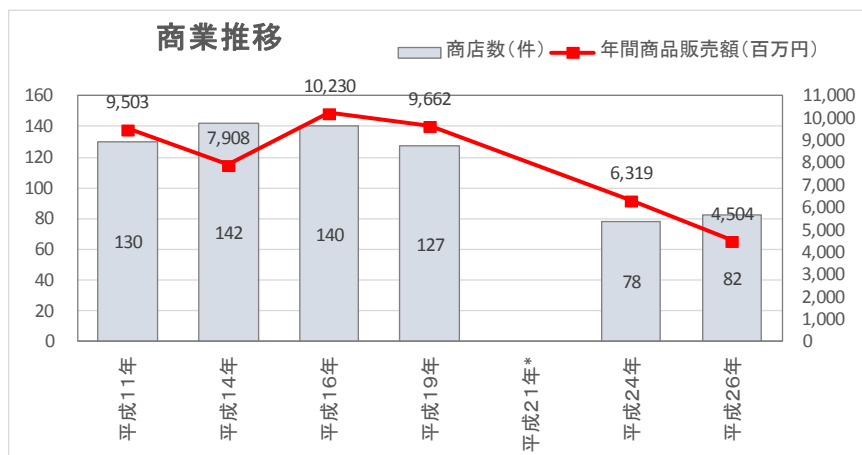
■阿寒町の産業別事業所数・従業者数の推移

業種	事業所数			従業者数		
	平成13年	平成18年	平成24年	平成13年	平成18年	平成24年
総数	434	406	297	3,614	3,149	2,032
農林漁業	14	14	9	99	113	106
鉱業	1	4	5	7	46	16
建設業	27	18	13	330	227	179
製造業	24	20	17	171	94	87
電気・ガス・水道業	5	4	0	13	9	0
情報通信業	-	-	-	-	-	-
運輸業	20	16	17	274	151	214
卸・小売業	192	133	101	797	580	426
金融・保険業	3	3	4	31	29	29
不動産業	4	7	6	56	21	27
飲食店・宿泊業	77	77	60	1,108	1,066	589
医療・福祉	8	21	9	81	170	121
教育・学習支援業		19	4		149	20
複合サービス業	10	7	4	383	130	66
サービス業		53	25		220	95

★資料…平成13年と18年は「事業所・企業統計調査」、平成24年は「経済センサス」

注1) 2002年(平成14年)3月、日本標準産業分類改定。

注5) 平成21年「経済センサス」は従業者数のデータが不明なため割愛



★資料…平成9年～19年は「商業統計調査」、平成21年・24年は「経済センサス」

注) 平成21年の年間商品販売額は調査されていないため不明

右表は、卸売業、小売業の事業所数、従業者数、年間販売額を比較したものである。

○阿寒町の卸売業・小売業の事業所数は82、従業者数は341人である。年間商品販売額を従業者数で割った従業者1人当たりの販売額は13.2百万円で、北海道および釧路市と比べて低い。

※なお、阿寒町に関してはデータが整備されていないため、数表のみ掲載した。コメントは割愛した。

■町村別、産業分類別の事業所数、従業者数、年間商品販売額及び売場面積

		北海道	釧路市	阿寒町
卸売業計・小売業中分類計	事業所数(件)	42,813	1,568	82
	従業者数(人)	343,808	12,263	341
	年間商品販売額(百万円)	14,890,903	481,043	4,504
	1人当たり販売額(百万円)	43.3	37.6	13.2
卸売業計	事業所数(件)	11,054	449	3
	従業者数(人)	94,805	3,190	17
	年間商品販売額(百万円)	9,950,754	303,393	-
	1人当たり販売額(百万円)	105.0	95.1	-
小売業計	事業所数(件)	31,759	1,119	79
	従業者数(人)	249,003	9,073	324
	年間商品販売額(百万円)	4,940,148	177,650	-
	売場面積(m ²)	6,513,300	219,283	5,689
	1人当たり販売額(百万円)	19.8	19.6	-
	売場効率(百万円)	0.8	0.8	-
織物・衣服・身の回り品小売業	事業所数(件)	4,081	140	5
	従業者数(人)	17,796	588	12
	年間商品販売額(百万円)	266,606	77,567	-
	売場面積(m ²)	864,120	3,138	-
	1人当たり販売額(百万円)	15.0	131.9	-
	売場効率(百万円)	0.3	24.7	-
飲食料品小売業	事業所数(件)	9,563	338	16
	従業者数(人)	92,646	3,796	126
	年間商品販売額(百万円)	1,389,639	56,100	2,115
	売場面積(m ²)	1,724,525	73,901	-
	1人当たり販売額(百万円)	15.0	14.8	16.8
	売場効率(百万円)	0.8	0.8	-
機械器具小売業	事業所数(件)	4,075	173	6
	従業者数(人)	27,885	1,242	14
	年間商品販売額(百万円)	803,396	36,726	116
	売場面積(m ²)	540,851	211	-
	1人当たり販売額(百万円)	28.8	29.6	8.3
	売場効率(百万円)	1.5	174.1	-
その他の小売業	事業所数(件)	12,690	434	50
	従業者数(人)	87,616	2,729	165
	年間商品販売額(百万円)	1,906,753	61,937	1,766
	売場面積(m ²)	2,390,024	-	-
	1人当たり販売額(百万円)	21.8	22.7	10.7
	売場効率(百万円)	0.8	-	-
無店舗小売業	事業所数(件)	1,256	29	2
	従業者数(人)	6,885	178	7
	年間商品販売額(百万円)	193,348	6,480	-
	1人当たり販売額(百万円)	28.1	36.4	-

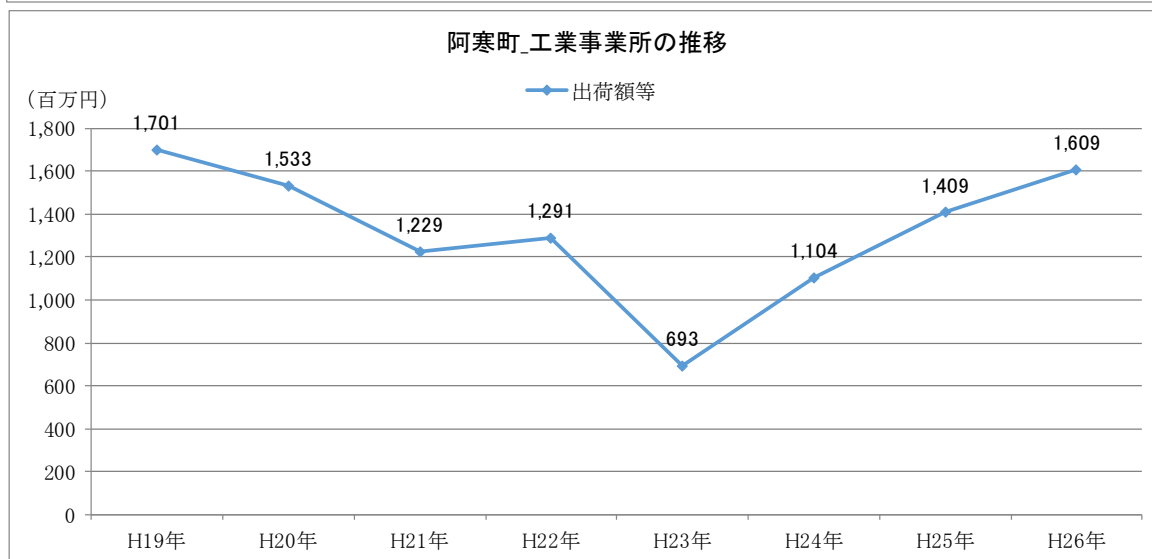
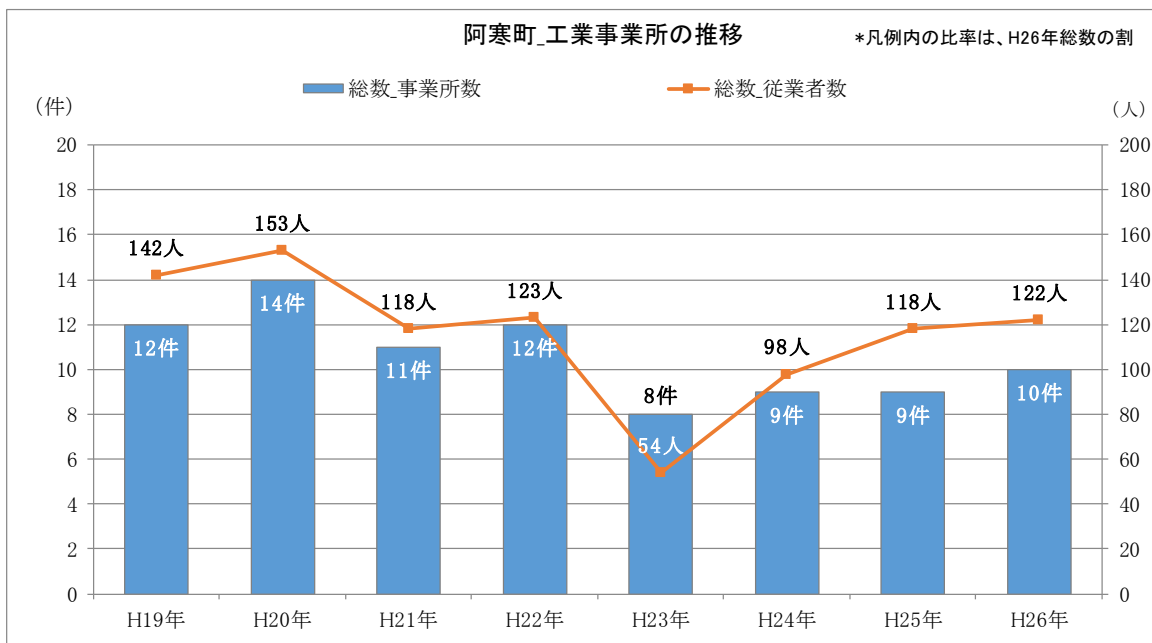
★資料…経済センサス(平成26年度)

注1) 1人当たり販売額＝小売業年間商品販売額÷小売業従業者数

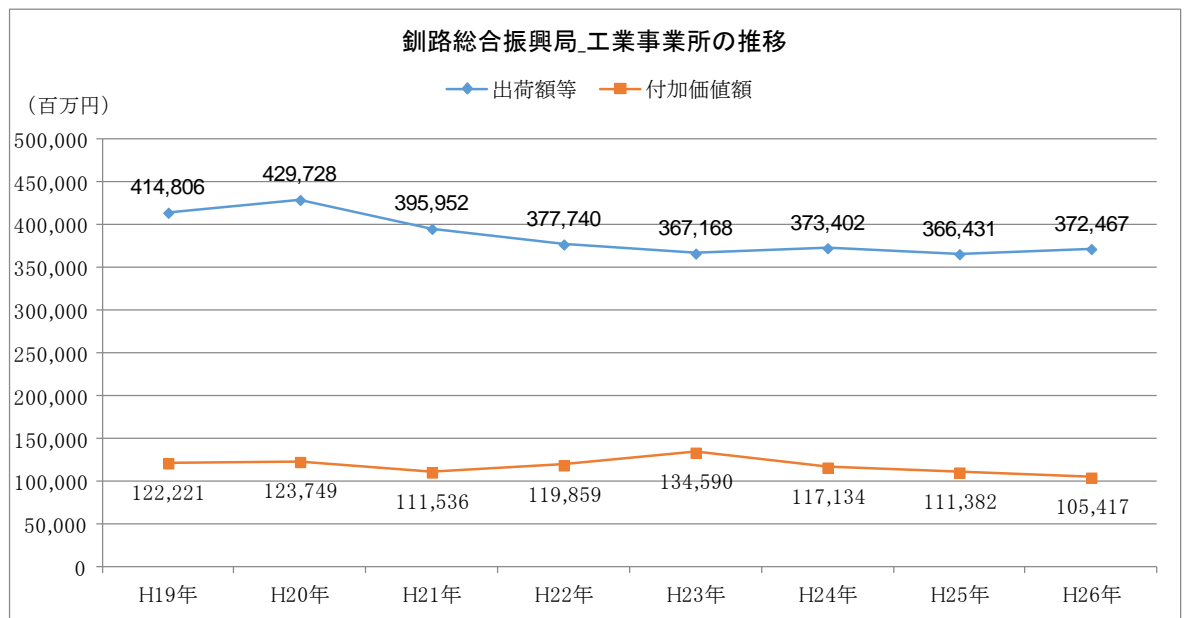
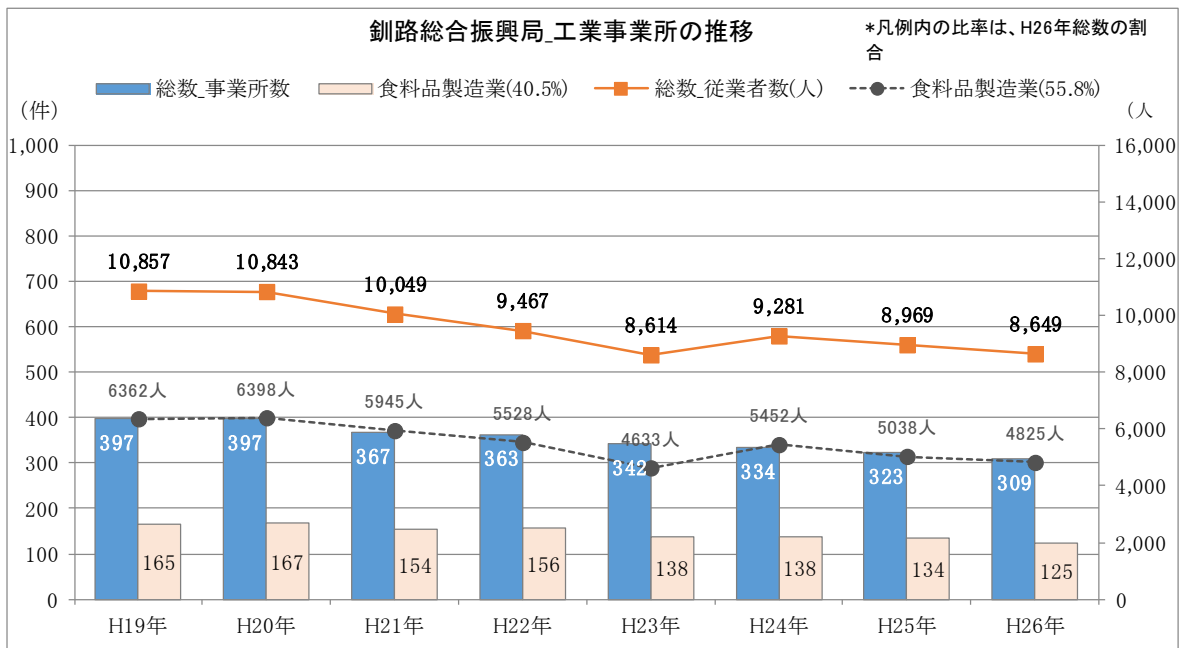
注2) 売場効率＝小売業年間商品販売額÷小売業売場面積

阿寒町の工業について、工業統計調査をもとに推移を示した。

- 工業統計調査によると、阿寒町の事業所数は10社で、従業者数は122人となっている。いずれも平成23年を底に、わずかに増加傾向にある。
- 工業出荷額は16.1億円、こちらも平成23年から順調に増えている。
- 参考までに釧路管内の工業事業所数は309社、うち食料品製造業は125社で41%を占める。従業者数は、全業種の8,649人のうち食料品製造業は4,825人・56%を占める。それだけ食料品製造業のウェイトが高いことがわかる。
- 釧路管内の工業事業所の出荷額は372億円、付加価値額は105億円、出荷額に占める付加価値額の割合は28%である。



★資料…工業統計調査(経済産業省)



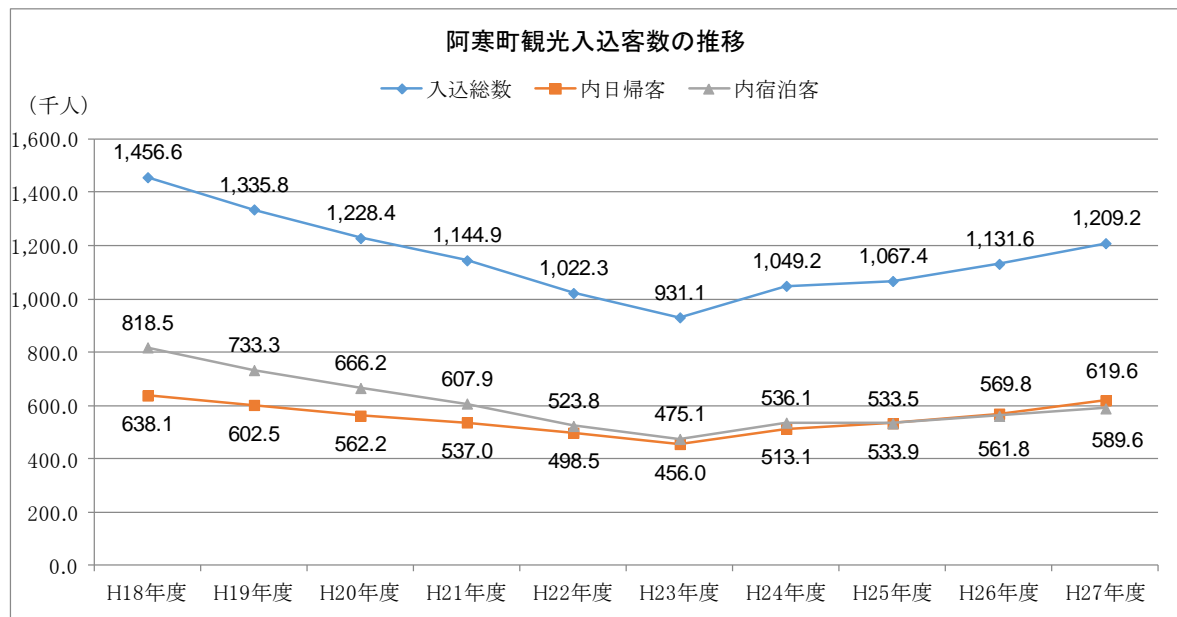
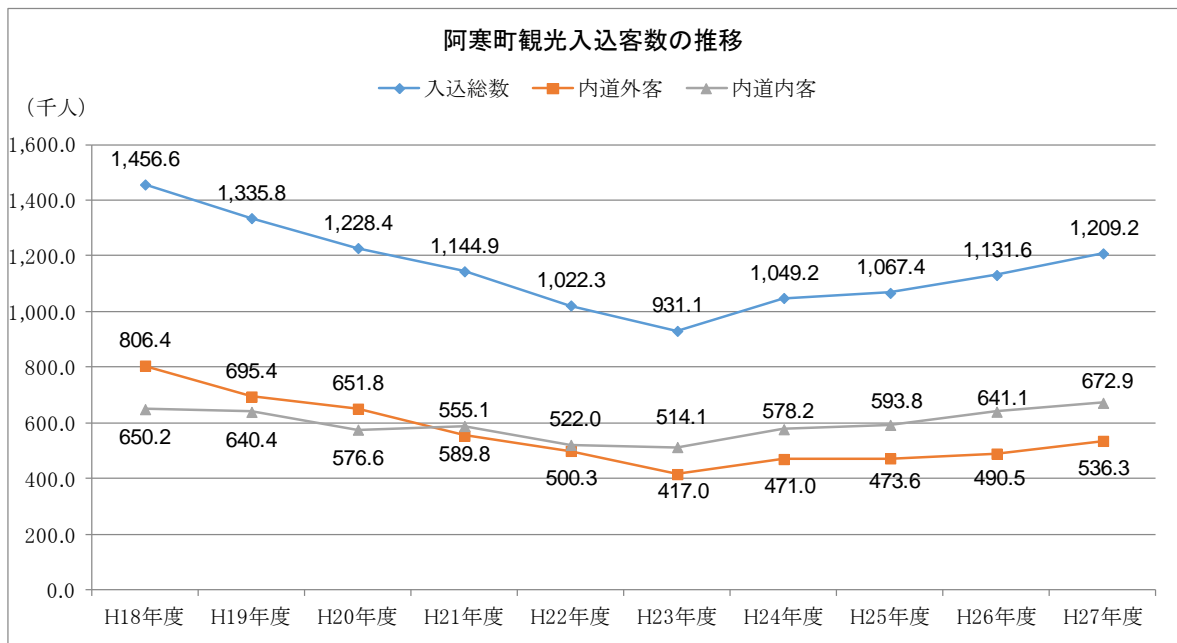
$$\text{付加価値額} = \text{売上高} - \text{費用総額} + \text{給与総額} + \text{租税公課}$$

3. 阿寒町の観光

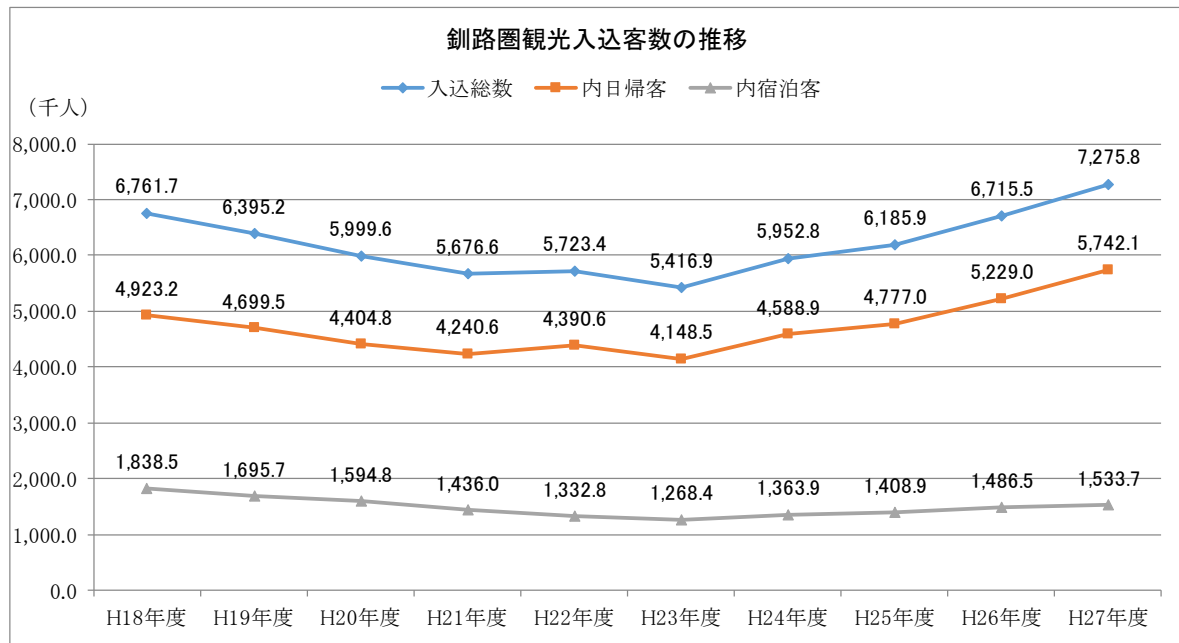
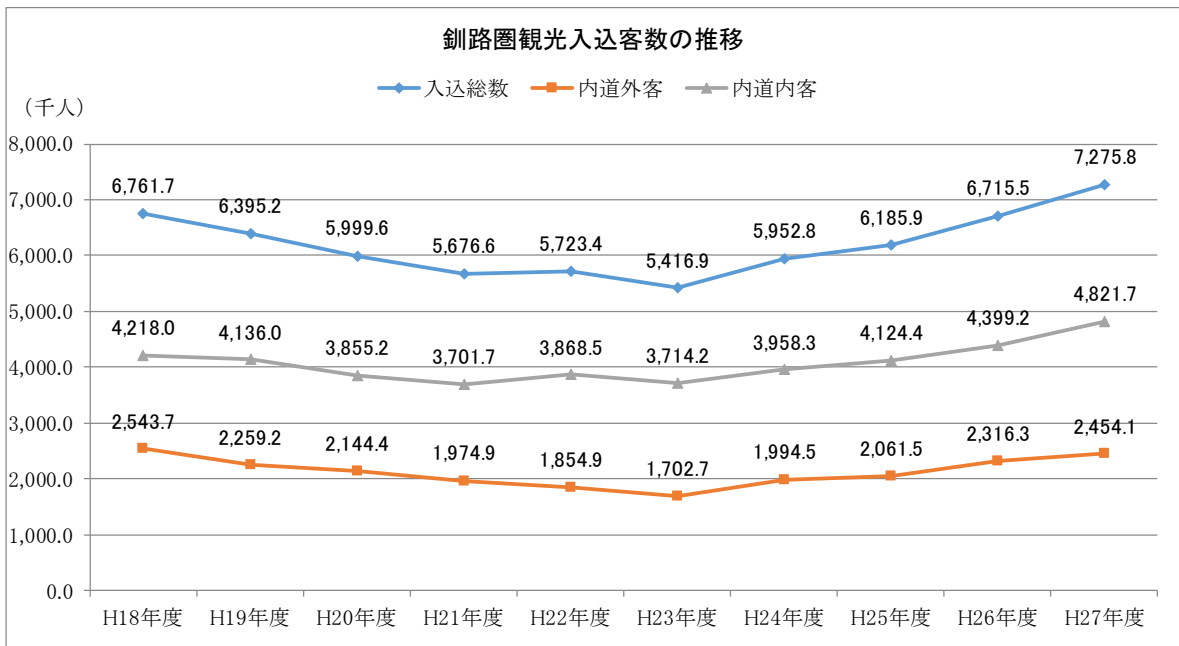
阿寒町の観光の観光客入込数は下図の通りである。

- 入込総数は平成23年度にそれまでの10万人台から9万人強にまで減少した。その後回復し、24年度105万人、27年度は121万人と4年連続して増加している。
- 道内客、道外客別では道内客が67万人、道外客が54万人となっている。日帰り・宿泊別では、日帰り客62万人に対して宿泊客59万人とほぼ拮抗している。

なお、釧路圏の観光入込客数も平成23年度を底に増加しており、27年度では728万人にと大きく増加した。道内客・道外客別では大きな違いがみられないが、日帰り客・宿泊客別では日帰り客の増加が目立っている。



★資料…北海道観光入込客数調査報告書(北海道)

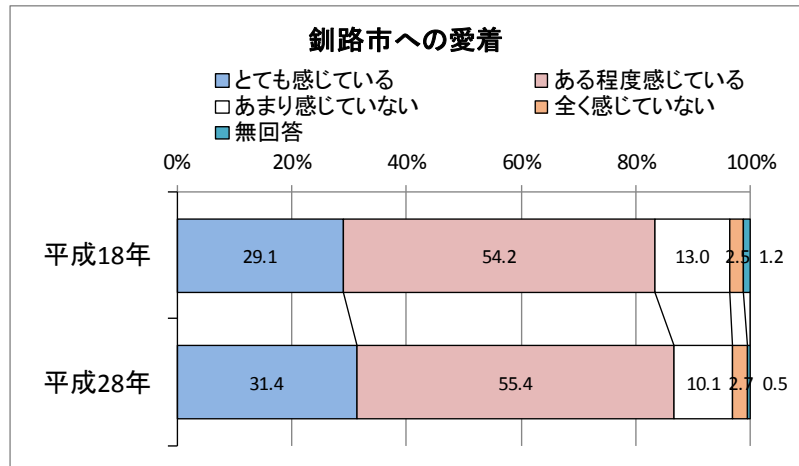


4. 住民意識

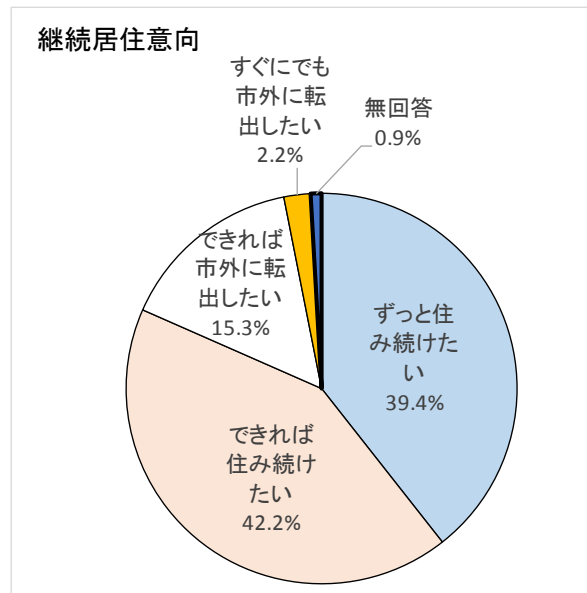
住民意識に関する調査は、阿寒町に限定したものではなく、釧路市のまちづくりアンケートを参考にした。

★資料…「釧路市まちづくり基本構想策定に向けたアンケート調査」(釧路市)
調査対象) 満16歳以上の釧路市民10,000人、回答数2,964人(回収率29.5%)
調査方法) 郵送配布・郵送回収
調査時期) 平成28年7月

○釧路市への愛着を「とても感じている」人は31.4%、これに「ある程度感じている」55.4%を合わせると86.8%とほぼ9割は“愛着を感じている”ことになる。平成18年と比べると、3ポイントほど増えている。

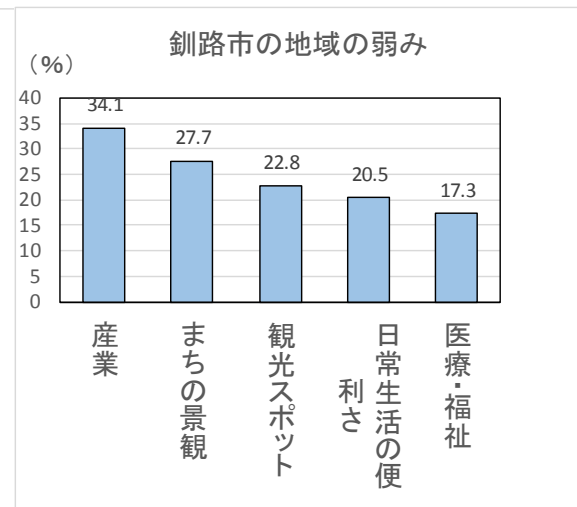
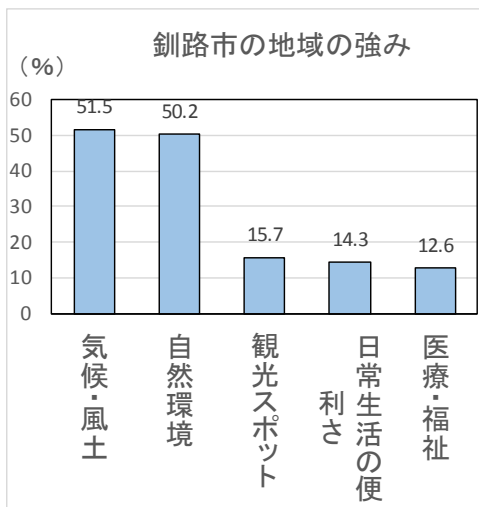


○継続居住意向については「ずっと住み続けたい」は39.4%、これに「できれば住み続けたい」42.2%を合わせた約8割が“住み続けたい”と答えている。



○釧路市の地域の強みは、第1位「気候・風土」51.5%、2位「自然環境」50.2%が上位である。

○逆に弱みは、「産業」34.1%、「まちの景観」27.7%、「観光スポット」22.8%、「日常生活の便利さ」20.5%となっている。



今後重要な取り組み分野は、第1位「『しごとに就く』や『子どもを生み育てる』などの『わかもの』の希望がかなうまち・くしろを目指す」53.7%、2位「地域経済を支える人材育成と雇用の場を確保する」37.9%、3位「地域経済のプラス成長に向け、地域資源を生かし、『域内循環』に取り組み、『外から稼ぐ力』の強化を図る」35.9%の順である。このように、“経済”や“雇用”に関することが上位にあげられている。

